

【答弁】

◎半田順春環境部長

御質問二、射撃競技の普及についての(二)長瀬射撃場のバリアフリー化についてお答えを申し上げます。

長瀬射撃場は、射撃に関する技能を向上させることにより、銃による事故の防止、射撃競技の発展を図るため平成六年六月に開設した施設です。開設以来、埼玉県猟友会による利用をはじめ、全日本レベルのライフル射撃大会や県内外の学生大会の開催などにより年間延べ約一万二千人以上の方に御利用いただいております。このうち、車椅子を利用する障害者の方の人数は年間延べ約十人となっています。

バリアフリー化につきましては、平成十六年の埼玉国体を契機に駐車場や建物内の段差解消やバリアフリースイールの設置など順次進めてまいりました。しかし、射撃棟にはエレベーターがないため、車椅子利用者に関しましては職員などが車椅子を持ち上げて階段を上り下りしており、現状は完全なバリアフリー化にはなっておりません。

まず、それぞれの射撃棟にエレベーターを設置できないかについてでございます。

設置費用は、一か所当たり三千万円程度と見込まれます。二〇二〇年のオリンピック・パラリンピックに向けて車椅子を利用している方々の施設利用が増えることも想定されます。今後の障害者の利用見込みを調査の上、設置するかどうか検討してまいります。

次に、エアライフル射撃場にバリアフリースイールを設置することについてでございます。

これまでエアライフル射撃場の一階にある小口径ライフル射撃場については、車椅子での利用頻度が比較的高いことから優先的にバリアフリースイールを設置しました。二階のエアライフル射撃場には審査員室やホールなどがあり、スペースが限られております。エレベーターの設置ができない場合は、今後の利用見込みを調査した上で二階の配置を工夫し、バリアフリースイールを設置するスペースを確保できるか検討いたします。

最後に、ライフル等を構える射座の段差解消についてでございます。

大口径ライフル射撃場、小口径ライフル射撃場、エアライフル射撃場の全てで射座に上がるためのスロープを一か所から二か所設置してまいりました。しかし、大会などで混雑する際には、これらのスロープの位置から射座まで移動することが予想されます。その際には、競技をしている人の後ろを車椅子で通行することが難しい場面があることも想定されます。そこで、大口径射撃場では射座のすぐ近くにスロープを設置できるよう可動式のスロープを準備いたしました。今後、小口径ライフル射撃場やエアライフル射撃場においても可動式のスロープを準備し、射座の段差解消に努め、長瀬射撃場のバリアフリー化を推進してまいります。

(以上)